

令和6年度 健康秋田21計画企画評価分科会 議事要旨

- 1 日 時 令和7年3月11日（火） 午後6時30分～午後7時50分
- 2 実施方法 オンライン
- 3 出席委員 別紙出席者名簿のとおり
- 4 議 事

- (1) 議 題
 - ①令和4年健康寿命について
 - ②令和6年度健康づくりに関する調査について
 - ③第3期健康秋田21計画における指標の現状値について
 - ④その他

5 議事概要

- (1) あいさつ（佐々木課長）
- (2) 分科会長の選任及び分科会長代理の指名
分科会長…伊藤委員、分科会長代理…安藤委員
- (3) 議題（○…各委員、●…事務局）

【議題①】

事務局から議題①について資料1により説明

- 健康寿命について、その年齢の人がどう思っているのかという主観的な評価であり、それで取組を評価してよいのかということは以前から疑問に思っていた。例えばウェルビーイングの指標では、秋田県民は自己効力感が非常に低く、健康に対してネガティブな人が多いが、静岡県民は自己効力感が高い。国が健康寿命を評価指標としているため仕方ないが、そういった要素が含まれる指標であることを考慮する必要がある。（安藤委員）
- 国民生活基礎調査は施設に入っている人は調査の対象となっておらず、健康状態が悪い人はこの調査には回答していないため、順位がその年々で大きく変動しうる指標である。健康寿命の順位の変動にあまり翻弄されずに、基本に立ち返って、喫煙率や野菜摂取量など、それぞれの分野の取組を地道にやっていくしかないと感じた。（野村委員）
- ご指摘のあったとおり、主観的な要素が入る指標でもあることから、健康寿命を基本の指標として用いながら、各分野の指標の状況も踏まえて総合的に取組を評価していく必要があると考えている。（小松主査）

【議題②】

事務局から議題②について資料2により説明

- 令和4年の県民健康・栄養調査における分析を担当した背景から、今回の調査における行動変容に対する認識と、塩分摂取量や栄養素、歩数など客観的な指標をクロスさせた方がいいと思う。
これまで、それぞれの調査をバラバラに行っていたが、県民健康・栄養調査の対象者に対してこの調査を実施することで、より細やかな分析ができるのではないかと。（野村委員）

- 次期県民健康・栄養調査の実施時期について検討を行っているところだが、国民健康・栄養調査の大規模調査の実施時期に合わせるとなると、次回が令和10年となり、間が空いてしまうという懸念があることから、令和8年辺りに県の独自の調査を実施できないか検討している。

このモデル的な調査の中で、御意見をいただいたような、健康・栄養調査と健康づくりに関する調査と一緒に調査できるかのということも検討していきたい。(佐々木課長)

- 問30のオーラルフレイルに関して、前回調査と比較して、「よく知っている」が10.2%から11.9%に増加し、「まったく知らない」が63.9%から45.2%に減少しているものの、普及啓発については、今後更に力を入れて進めていく必要があると感じている。(畠山委員)
- 数字からすれば改善傾向にあるものの、「よく知っている」、「言葉は聞いたことはあるが、意味はよく知らない」と回答した人を合わせても過半数には達していない状況であることから、オーラルフレイルを普及させるための取組を継続して進めていく必要があると考えている。(中村チームリーダー)
- もう少し積極的な普及啓発をお願いしたい。また、栄養分野とも連携した普及啓発を行っていきたくと考えており、野村委員にも御意見を伺いたい。(畠山委員)
- 令和4年の県民健康・栄養調査にはオーラルフレイルの項目が入っていなかったため細かな分析はできなかった。次回の調査においてオーラルフレイルも含めて分析が可能であれば、啓発に向けた解析方法など前向きに検討したい。(野村委員)
- オーラルは口のことであるということを大原則として知ってもらう必要がある。また、フレイルもまだあまり認知されていないため、日本語を交えながらわかりやすく周知していくことを検討してほしい。(伊藤分科会長)
- 91ページの「喫煙習慣と受動喫煙防止条例に関する知識との関係」について、健康増進法の改正もあり、東京オリンピック開催の際や、現在は万博に合わせての大阪市内での路上喫煙禁止などで、これだけメディアを騒がせているにも関わらず、秋田県の受動喫煙防止条例の認知度が30%程度にとどまっていることが非常に残念である。

問18の喫煙習慣について、20代の若い人の喫煙率が低いものの、30～50代、また60代もそうだが、働き盛り世代における喫煙率が非常に高くなっている。

これは、20歳になってすぐにたばこを吸う人はそこまで多くないと思うが、仕事をしている間に会社の人たちから喫煙習慣を教え込まれることがあるなど、たばこの正しい情報が伝わっていないことの表れではないかと思われる。

学生など若い人には、一生懸命たばこの害を伝えているつもりだが、これが伝わりきれないもどかしさを感じる。

若い人は新聞やテレビを見ないという話も聞くが、そうであれば、情報の伝え方をもう少しこう考えながら、まず若い人たちにたばこに手を出さないでもらうためにどういった働きかけをしていくかを根本的に考える必要がある。(三浦委員)
- がんについて、がん検診の受診率がいまひとつという状況があるが、安藤委員から御意見をいただきたい。(伊藤分科会長)

- 特に消化器の方で、受診したくても中々受診ができない人が一定数いるので、その対策が必要であると考えている。特に高齢者が交通インフラの不足による影響を受けていると聞いている。(安藤委員)
- 昨日、がん対策分科会が行われたが、検診の受診率がまだ低く、地域差があるという問題があるため、受診率の低い地域を上げていく必要があり、また、胃がんの死亡率が全国ワーストでなんとかワースト脱却しなければいけないということでもあった。
大腸がんもあまり良い状況ではないということであったので、がん検診をしっかり受けてもらうための取組についてもお願いしたい。(伊藤分科会長)

【議題3】

事務局から議題③について資料3により説明

- 糖尿病性腎症の年間新規透析導入患者数が減少しているとのことであったが、腎不全の年齢調整死亡率は上がっている。人口減少も考慮すると、患者数ではなく割合で評価する方が適切であると思われる。(野村委員)
- 新規透析導入患者数の減少については、全国的にも同様の傾向にあることや、もともと高齢者が占める割合が多いということも影響している可能性がある。当該指標は健康日本21（第三次）においても設定されていることから、今後、数値の推移や国の状況も注視しながら、県の計画の中間評価の際に必要な見直しを検討していきたい。(小松主査)
- 受動喫煙防止条例について、小規模飲食店における屋内禁煙の努力義務に関する経過措置が3年間の延長となったことは指標に反映されていないのか。(野村委員)
- 今回の延長については2月議会で決まったもので、経過措置の延長自体が指標になるようなものではないことから、指標としては設定していない。(斎藤チームリーダー)
- 秋田県では小規模飲食店が多数を占めており、環境を変えていく必要があると思うが。(野村委員)
- 小規模な飲食店であっても原則は屋内禁煙となっていることから、経過措置が延長となったものの、小規模飲食店においても受動喫煙のない環境をできるだけ早期に実現するよう、一緒に取り組んでいくこととしているので、御理解をいただきたい。(斎藤チームリーダー)
- フッ化物洗口を実施している施設の割合について、令和6年で小学校が99.4%、中学校が97.1%となっているが、幼稚園、保育所は62.5%、特別支援学校が33.3%と小中学校と比較して実施率が低いため、対策を考える必要がある。(畠山委員)
- 県の口腔保健支援センターの歯科衛生士と全県を動きながら、小学校等にも関与しているため、そういったところを通じながら実施施設を増やしていければと考えている。(鎌田政策監)
- 特別支援学校への対策を考える必要があると思うがどうか。(畠山委員)
- 特別支援学校の方からも歯科保健指導の依頼を受けているが、一人ひとり子供たちの状況に合わせ、細やかな対応を求められるところでもあることから、状況に応じて関わっていくことが重要であると考えている。(鎌田政策監)
- 肥満傾向児の割合について、秋田市の調査に携わっているが、県のデータと秋田市のデータを比べると秋田市のデータの方が割合が低くなっており、コロナ禍で肥満度が上

がったものの、ここ1年ぐらいは減少傾向となっている。

以前から言われていることだが、秋田市よりも周辺部の方が、通学に車を使い、歩くといった基本的な動きが少ないため、肥満度が高くなる傾向があるので、地域ごとの対策というのでも考えていく必要がある。

また、計画にも記載があったが、スクリーンタイムが非常に長くなっていて、それが、肥満だけでなく、睡眠や朝食を抜くなどの様々な問題に影響を及ぼしている。

子どものスクリーンタイムの長さは親のスクリーンタイムの長さと比例する傾向があるので、子どもに対する教育も大事だが、親世代に対する働きかけも非常に重要になってくると考えている。(武田委員)

- 武田委員がおっしゃっていたとおり、秋田市と他の地域で状況が異なる。

由利本荘市も肥満の子どもが多く、バス通学やゲーム、Y o u T u b eなどで運動時間が少なくなっていることが影響しており、全県としてどのように対策していくかということを考えていかなければいけない。

また、朝食を食べる子どもの割合も減ってきているようだが、武田委員から御意見をいただきたい。(伊藤分科会長)

- スマホなどスクリーンタイムが長い子どもはどうしても睡眠時間が短くなって、朝起きられないという悪循環があるので、そこに対する介入というのがやはり重要になってくるかと思う。(武田委員)

- 65歳以上の社会活動について、高齢者の就業率が高くなってきており、それが影響しているかもしれないので、この年代がどのぐらい就業しているのかということも分析してみるとよいかと思う。(安藤委員)

- 健康な状態にある人が参加できるような場所や仕組みづくりが重要であると思う。(野村委員)

- 社会参加に関する数値が良くなってきているのはとてもよいことだと思う。今後も、高齢者をはじめ、様々な人が社会活動に参加できる仕組みや場所づくりを進めてほしい。(伊藤分科会長)

- がん検診について、受診率もそうだが、受診してせっかく疑いが見つかったのに、精密検査に行かないで、進行がんで亡くなってしまう人が秋田県でとても多いということを経験している場面で見聞きしているので、そこについてのデータや分析も必要であると思う。(三浦委員)

(3) その他

特になし

(以 上)